データ①東京アート株式会社

### PATH   PATH	備考
## A PACE	
Marie	
March   Marc	
March   Marc	
### PART   PART	
Part	一」該当者なし
## PACKET   1985	
## PART	一」該当者なし
MAGE   18   18   18   18   18   18   18   1	一」該当者なし
## MATCH PRINTS   100	一」該当者なし
March	
MACHINE   MACH	全体の全従業員の所定勤務問
### PROVIDED NO. 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	残業時間
### AND STATE	外短時間労働者除く
### MATTER STATE AND STATE	
## 15   Part 15	
## ALTO THE PARTY BESTER AND ALTO THE PARTY	ト従業員除く
### 1985   1985	
### MATCH   1975	性平均賃金-女性平均賃金)
### PACAMAN   T.	性平均賃金×100
### PASA   PASA	
### ( 1974 년 - 1978 에 1978 년 - 1978 년 - 1978 년 - 1978 에	
### PART OF THE PA	
### METALES   10	:員の欠勤日数/勤務予定日数 )0
### AND STANDAY CONTROLLED FROM THE STANDAY CONTROLLED FR	
### 1997 2014 전체 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
### PART	
### PART	
### MATINE	
변화: 아무슨 점점에 변경 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
변경도	
### CATE COICE  ### COICE	
報告: 출부는 출부는 경험점을 변경 보고 경험점을 하는 경험점을 변경 보고 경험점을 하는 경험점을 함께 하는 경험점을 함께 함께 하는 경험점을 함께 함께 하는 경험점을 함께 하는 경험점을 하는 경험A로 점점	
### 2017 - 1 2 전 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	-
변경보다 시호 전에 가는 소개보 전쟁 기계 등 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
### AP - 1 - 조현대급기시대체원	
報酬者	.目標
### AD-72 설립성격/세월에실 12을 CU200	
변경	
関係	
理解	
程度	
변형품을 변경되는 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
開題	
解析	
神器可能な消費の促進	
持続可能な消費の促進	
接	
指数プラント別)	
別電労働・推制労働に関する研修を受けた従業員数	
内部通報 報告件数	
内部通報 報告件数	
A+B+C+D:通報件数 合計 件 - 2 0 遅れている 0 0 0%を維持する 7 0 3 0 0%を維持する 7 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	
利益和反   件   0   0   0   順調   0   0   0   0   0   0   0   0   0	
自然災害	
上記以外の事件・事故     件     0	
製品回収     回収商品数     件     0	
怪我等 報告件数	
強制労働報告	
22 計	
資材     ファインスのように、不明では、「かいてもないでは、ままいのでは、ままりでは、ままいのでは、ままでは、ままいのでは、ままりでは、ままいのでは、ままいのでは、ままいのでは、ままいのでは、ままいのでは、ままいのでは、まま	
サプライヤー     CSR調達に関する研修を受けた従業員数     人     0     0     34     34     順調     40     40     2030年までに対象従業員40名に対し研修を行う	

		)比率 %	2022 450 270 1880 60.0 306 60.0 100 100 1,328,000 580 1.3 100 75 270 100 0 66 0 23 4.52 0.02 322	460 280 180 60.9 308 - - - - 1,330,000 590 1.3 80 270 100 0 4	2024実績 467 285 176 61.0 309 — 100 100 — — — 1,354,600 586		遅れている 順調 遅れている	2025 475 295 180 62.0 100 100 1,340 570 1.1	2030 500 320 188 64.0 - 100 100 - 100 100 1,400,000 500	100%を維持する 100%を維持する 2025年までに100%を目指す 2025年までに100%を目指す 2025年までに100%を目指す 2030年までに適の平均残業時間を1時間にする	※「−」該当者なし ※「−」該当者なし
本名情報	A   男性   B   女性   A   男性   B   女性   A + B   全体   A + B   A + B   全   A + B   全   A + B   全   A + B   全   A + B   A	時間 時間/週/人 % % % % % % % % % % 件件 件件	270 180 60.0 306 - 100 1,328,000 580 1.3 100 75 270 100 6 6 6 0 23 4.52 0.02 32	280 180 60.9 308 - 100 100 1,330,000 590 1.3 100 80 270 100 0 4 4 0	285 176 61.0 3099 — 100 — — — — 1,354,600 586 1.3 100 77	290 180 61.7 - - 100 100 - - - 1,320,000 580 1.2 100 75	順調 遅れている - 順調 順調  - - 理れている 遅れている 順調 遅れている	295 180 62.0 100 100 1,340 570 1.1	320 180 64.0 - 0 100 100 - 100 100 1,400,000 500	100%を維持する 100%を維持する 2025年までに100%を目指す 2025年までに100%を目指す 2025年までに100%を目指す 2030年までに週の平均残業時間を1時間にする 2030年までに週の平均残業時	
本学・	A) 男性 B) 女性 A+B) 全体 A) 男性 B) 女性 A+B) 全体 B) 女性 A+B) 全体  全従業員の年収の中央値に3 最も給与の高い個人の年収の 給与の定時支払率 男女間における賃金格差の3 労災件数 うち休業1日以上 死亡数 休業労働日数 度数率 強度率 休職者数	時間 時間/週/人 % % % % % % % % % % 件件 件件	180 60.0 306 - 100 100 1,328,000 580 1.3 100 75 270 100 6 6 0 23 4.52 32	180 60.9 308 - 100 100 1,330,000 590 1.3 100 80 270 100 0 4 4	176 61.0 309 - 100 100 1,354,600 586 1.3 100 77	180 61.7 100 100 1,320,000 580 1.2 100 75	順調 遅れている - 順調 順調  - - 理れている 遅れている 順調 遅れている	180 62.0 - - 100 100 - - - - 1,340 570	180 64.0  - 0 100 100 - 100 0 100 100 100 100 1	100%を維持する 100%を維持する 2025年までに100%を目指す 2025年までに100%を目指す 2025年までに100%を目指す 2030年までに週の平均残業時間を1時間にする 2030年までに週の平均残業時	
京東日敬	B) 女性 A+B) 全体 A) 男性 B) 女性 A+B) 女性 A+B) 全体  全従業員の年収の中央値にえ 最も給与の高い個人の年収の 給与の定時支払率 男女間における資金格差の3 労災件数 うち休業1日以上 死亡数 休業労働日数 度数率 強度率 休職者数	時間 時間/週/人 % % % % % % % % % % 件件 件件	306 100 100 1,328,000 580 1.3 1.3 100 755 270 100 6 6 0 23 4.52 0.02 32	308 1000 1000 1,330,000 590 1.3 1.30 80 270 100 0 4 4 0	309 — 100 100 — — — 1,354,600 586 1.3 100 77	- 100 100 1,320,000 580 1.2 100 75		- 100 100 - 100 1,340 570 1.1	- 0 100 100 - 100 100 100 100 100 1,400,000 500	100%を維持する 100%を維持する 2025年までに100%を目指す 2025年までに100%を目指す 2025年までに100%を目指す 2030年までに週の平均残業時間を1時間にする 2030年までに週の平均残業時	
	B) 女性 A+B) 全体 A) 男性 B) 女性 A+B) 女性 A+B) 全体  全従業員の年収の中央値にえ 最も給与の高い個人の年収の 給与の定時支払率 男女間における資金格差の3 労災件数 うち休業1日以上 死亡数 休業労働日数 度数率 強度率 休職者数	時間 時間/週/人 % % % % % % % % % % 件件 件件	-100 -100	- 100 100 1,330,000 590 1.3 100 80 270 100 0		100 100 - - - 1,320,000 580 1.2 100 75	- M	100 100 	100 100 100 100 100 1,400,000 500	100%を維持する 100%を維持する 2025年までに100%を目指す 2025年までに100%を目指す 2025年までに100%を目指す 2030年までに週の平均残業時 間を1時間にする 2030年までに週の平均残業時	
電域状態 利用日数	B) 女性 A+B) 全体 A) 男性 B) 女性 A+B) 女性 A+B) 全体  全従業員の年収の中央値にえ 最も給与の高い個人の年収の 給与の定時支払率 男女間における資金格差の3 労災件数 うち休業1日以上 死亡数 休業労働日数 度数率 強度率 休職者数	時間 時間/週/人 % % % % % % % % % % 件件 件件	100 1,328,000 580 1.3 100 75 270 100 6 6 0 23 4.52 0,02 32	100 1,330,000 590 1.3 100 80 270 100 4 4 4 0 0	100   1,354,600 586 1.3 100 77 270	100 - - - 1,320,000 580 1.2 100 75 270	順調 順調 一 一 一 一 選れている 遅れている 順調 遅れている	100 100 	100 100 100 100 100 1,400,000 500	100%を維持する 100%を維持する 2025年までに100%を目指す 2025年までに100%を目指す 2025年までに100%を目指す 2030年までに週の平均残業時 間を1時間にする 2030年までに週の平均残業時	
	A) 男性 B) 女性 A+B) 全体  全従業員の年収の中央値に3 最も給与の高い個人の年収の 給与の定時支払率 男女間における賃金格差の3 労災件数 うち休業1日以上 死亡数 休業労働日数 度数率 強度率 休職者数	時間 時間/週/人 % % % % % % % % % % 件件 件件				- - - 1,320,000 580 1.2 100 75	ー ー ー 選れている 遅れている 順調 遅れている		- 100 100 100 1,400,000 500	2025年までに100%を目指す 2025年までに100%を目指す 2025年までに100%を目指す 2025年までに100%を目指す 2030年までに週の平均残業時間を1時間にする 2030年までに週の平均残業時	※「-」該当者なし
	B) 女性 A+B) 全体 全従業員の年収の中央値に3 最も給与の高い個人の年収。 給与の定時支払率 男女間における賃金格差の5 労災件数 うち休業1日以上 死亡数 休業労働日数 度数率 強度率 休職者数	時間 時間/週/人 % % % % % % % % % % 件件 件件					ー ー 一 遅れている 遅れている 順調 遅れている	- - - 1,340 570 1.1	100 100 1,400,000 500	2025年までに100%を目指す 2025年までに100%を目指す 2030年までに週の平均残業時間を1時間にする 2030年までに週の平均残業時	※「-」該当者なし
	A+B) 全体  全従業員の年収の中央値に3 最も給与の高い個人の年収の 給与の定時支払率  男女間における賃金格差の3 労災件数 うち休業1日以上 死亡数 休業労働日数 度数率 強度率 休職者数	時間 時間/週/人 % % % % % % % % % % 件件 件件	1,328,000 580 1.3 1.00 75 270 100 0 6 6 0 23 4.52 0.02 32		- 1,354,600 586 1.3 100 77 270	- 1,320,000 580 1.2 100 75 270	ー 遅れている 遅れている 順調 遅れている	1,340 570 1.1	100 1,400,000 500 1.0	2025年までに100%を目指す 2030年までに週の平均残業時間を1時間にする 2030年までに週の平均残業時	※「-」該当者なし
	全従業員の年収の中央値に対 最も給与の高い個人の年収の 給与の定時支払率 男女間における賃金格差の当 労災件数 うち休業1日以上 死亡数 休業労働日数 度数率 強度率 休職者数	時間 時間/週/人 % % % % % % % % % % 件件 件件	1,328,000 580 1.3 1.00 75 270 100 0 66 60 23 4.52 0.02 32	1,330,000 590 1.3 100 80 270 100 0 4 4	1,354,600 586 1.3 100 77 270	1,320,000 580 1.2 100 75 270	遅れている 遅れている 順調 遅れている	1,340 570 1.1 100	1,400,000 500 1.0	2030年までに週の平均残業時間を1時間にする 2030年までに週の平均残業時	※ 1- 」 該当者なし
	最も給与の高い個人の年収の 給与の定時支払率 男女間における資金格差の <sup>3</sup> 労災件数 うち休業1日以上 死亡数 休業労働日数 度数率 強度率 休職者数	時間 時間/週/人 % % % % % % % % % % 件件 件件	1.3 100 75 270 100 0 6 6 0 0 23 4.52 0.022 32	1.3 100 80 270 100 0 4 4 0	586 1.3 100 77 270	1.2 100 75 270	遅れている 順調 遅れている	570 1.1 100	500	2030年までに週の平均残業時間を1時間にする 2030年までに週の平均残業時	
	最も給与の高い個人の年収の 給与の定時支払率 男女間における資金格差の <sup>3</sup> 労災件数 うち休業1日以上 死亡数 休業労働日数 度数率 強度率 休職者数	時間/週/人 % % % % % % 2均値 件 件 件 日 が 人 日 の の の の の の の の の の の の の	1.3 100 75 270 100 0 6 6 6 0 23 4.52 0.02	1.3 100 80 270 100 0 4 4	1.3 100 77 270	1.2 100 75 270	遅れている 順調 遅れている	1.1	1.0	同を1時間にする 2030年までに週の平均残業時	
	<ul> <li>最も給与の高い個人の年収の 給与の定時支払率</li> <li>男女間における資金格差の<sup>3</sup></li> <li>労災件数</li> <li>うち休業1日以上</li> <li>死亡数</li> <li>休業労働日数</li> <li>度数率</li> <li>強度率</li> <li>休職者数</li> </ul>	%   %   %   %   %   %   %   %   %   %	100 75 270 100 0 66 6 0 233 4,52 0.02	100 80 270 100 0 4 4	100 77 270	100 75 270	順調遅れている	100	1.0		
対象と人権   (定務員の安全衛生	<ul> <li>最も給与の高い個人の年収の 給与の定時支払率</li> <li>男女間における資金格差の<sup>3</sup></li> <li>労災件数</li> <li>うち休業1日以上</li> <li>死亡数</li> <li>休業労働日数</li> <li>度数率</li> <li>強度率</li> <li>休職者数</li> </ul>	比率 96 96 96 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97	75 270 100 0 6 6 0 23 4.52 0.02	270 100 0 4 4 0	77 270	75 270	遅れている		100	削る1時间にもの	
資金	<ul> <li>最も給与の高い個人の年収の 給与の定時支払率</li> <li>男女間における資金格差の<sup>3</sup></li> <li>労災件数</li> <li>うち休業1日以上</li> <li>死亡数</li> <li>休業労働日数</li> <li>度数率</li> <li>強度率</li> <li>休職者数</li> </ul>	比率 96 96 96 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97	270 100 0 6 6 0 23 4.52 0.02 32	270 100 0 4 4 0	270	270		80	0.0	100%を維持する	
労働と人権	給与の定時支払率 男女間における賃金格差の <sup>3</sup> 労災件数 うち休業1日以上 死亡数 休業労働日数 度数率 強度率 休職者数	%	100 0 6 6 0 23 4.52 0.02	100 0 4 4 0			順調			2030年までに90%を目指す	
労働と人権	男女間における賃金格差の5 労災件数 うち休業1日以上 死亡数 休業労働日数 度数率 強度率 休職者数	件 件 件 日 人 日 % %	0 6 6 0 23 4.52 0.02	0 4 4 0	0 4	100		270		2030年までに250%を目指す	
快職者 (産休育休、介護休暇除く)   機能診断受診率   ストレスチェック 受診率   社内研修 (社内部施会・定例会議) 実施回数   セミナー・講習会等 実施回数   平均研修時間   社会対話   従業員代表によってカバーされる従業員数   差別やハラスメント防止に関する研修   女性従業員   技能業習生受入数   マイノリティ及び社会的弱者   スコープ1 温室効果ガス総排出量   スコープ2 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温度効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温度効果ガス総排出量   スコープ4   表別・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・	労災件数 うち休業1日以上 死亡数 休業労働日数 度数率 強度率 休職者数	件 件 件 日 人 日 % %	6 0 23 4.52 0.02	4	0			100		100%を維持する	(男性平均賃金-女性平均賃金)
快職者 (産休育休、介護休暇除く)   機能診断受診率   ストレスチェック 受診率   社内研修 (社内部施会・定例会議) 実施回数   セミナー・講習会等 実施回数   平均研修時間   社会対話   従業員代表によってカバーされる従業員数   差別やハラスメント防止に関する研修   女性従業員   技能業習生受入数   マイノリティ及び社会的弱者   スコープ1 温室効果ガス総排出量   スコープ2 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温度効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温度効果ガス総排出量   スコープ4   表別・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・	うち休業1日以上 死亡数 休業労働日数 度数率 強度率 休職者数	Б Б Б % %	6 0 23 4.52 0.02	4	4	0	順調	0		0%を維持する	÷男性平均賃金×100
快職者 (産休育休、介護休暇除く)   機能診断受診率   ストレスチェック 受診率   社内研修 (社内部施会・定例会議) 実施回数   セミナー・講習会等 実施回数   平均研修時間   社会対話   従業員代表によってカバーされる従業員数   差別やハラスメント防止に関する研修   女性従業員   技能業習生受入数   マイノリティ及び社会的弱者   スコープ1 温室効果ガス総排出量   スコープ2 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温度効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温度効果ガス総排出量   スコープ4   表別・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・	死亡数 休業労働日数 度数率 強度率 休職者数	Б Б Б % %	0 23 4.52 0.02 32	0	1	0	遅れている 遅れている	0		0%を維持する 0%を維持する	
快職者 (産休育休、介護休暇除く)   機能診断受診率   ストレスチェック 受診率   社内研修 (社内部施会・定例会議) 実施回数   セミナー・講習会等 実施回数   平均研修時間   社会対話   従業員代表によってカバーされる従業員数   差別やハラスメント防止に関する研修   女性従業員   技能業習生受入数   マイノリティ及び社会的弱者   スコープ1 温室効果ガス総排出量   スコープ2 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコーブ3 温度効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温度効果ガス総排出量   スコープ4   表別・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・大部・	度数率 強度率 休職者数	人 日 % %	4.52 0.02 32	15	0	0	順調	0		0%を維持する	
休職者 (産休育休、介護休暇除く)   健康診断受診率   ストレスチェック 受診率   社内研修 (社内勉強会・定例会議) 実施回数   セミナー・講習会等 実施回数   平均研修時間   社会対話   従業員代表によってカバーされる従業員数   差別やハラスメント防止に関する研修   女性従業員   技能実習生受入数   マイノリティ及び社会的弱者   スコープ1 温室効果ガス総排出量   スコープ2 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   スコープ3 温室効果ガス総排出量   エネルギー   水   廃棄物   生物多様性   製品の利用   持続可能な消費の促進	強度率 休職者数	% % ©	0.02 32			0	遅れている	0		0%を維持する	
健康診断受診率   ストレスチェック 受診率   社内研修(社内勉強会・定例会議) 実施回数   セミナー・講習会等 実施回数   平均研修時間   社会対話		% % ©		0.01	2.95 0.01	0	遅れている 遅れている	0		0%を維持する 0%を維持する	
ストレスチェック 受診率 社内研修(社内勉強会・定例会議) 実施回数 セミナー・講習会等 実施回数 平均研修時間 社会対話 従業員代表によってカバーされる従業員数 差別やハラスメント防止に関する研修 を性従業員 技能実習生受入数 マイノリティ及び社会的弱者 スコープ1 温室効果ガス影排出量 スコープ2 温室効果ガス影排出量 スコープ3 温室効果ガス影排出量 エネルギー 水 廃棄物 生物多様性 製品の利用	体職延べ日数	% % ©				0	·-·	0		0%を維持する	
ストレスチェック 受診率 社内研修(社内勉強会・定例会議) 実施回数 セミナー・講習会等 実施回数 平均研修時間 社会対話 従業員代表によってカバーされる従業員数 差別やハラスメント防止に関する研修 を性従業員 技能実習生受入数 マイノリティ及び社会的弱者 スコープ1 温室効果ガス影排出量 スコープ2 温室効果ガス影排出量 スコープ3 温室効果ガス影排出量 エネルギー 水 廃棄物 生物多様性 製品の利用		ш	65 36		58 100	100	遅れている 順調	100		0%を維持する 100%を維持する	
セミナー・講習会等 実施回数   セミナー・講習会等 実施回数   セミナー・講習会等 実施回数   単均研修時間   社会対話   従業員代表によってカバーされる従業員数   差別やハラスメント防止に関する研修   女性従業員   技能実習生受入数   マイノリティ及び社会的弱者   スコープ1   温室効果ガス総排出量   スコープ2   温室効果ガス総排出量   スコープ3   温室効果ガス総排出量   スコープ3   温室効果ガス総排出量   エネルギー   水   廃棄物   生物多様性   製品の利用   持続可能な消費の促進		ш	0		0	0	順調	0	100	100%を維持する	
平均研修時間   投業員代表によってカバーされる従業員数   差別やハラスメント防止に関する研修   支援・			6	8	8	10	遅れている	10	20	2030年に20回開催することを 目指す	
平均研修時間   投業員代表によってカバーされる従業員数   差別やハラスメント防止に関する研修   支援・					10		W	10		日月9 2030年に15回開催することを	
社会対話		Ш	3	- 3	12	5	進んでいる	12	15	目指す	
差別やハラスメント防止に関する研修  女性従業員 技能実習生受入数  マイノリティ及び社会的弱者  スコープ1 温室効果ガス総排出量 スコープ2 温室効果ガス総排出量 スコープ3 温室効果ガス総排出量 エネルギー 水 廃棄物 生物多様性 製品の利用  持続可能な消費の促進		時間	1	1.5	1.5	1.5	順調	1.5	3	2030年に3時間の研修を実施することを目指す	
差別やハラスメント防止に関する研修  女性従業員 技能実習生受入数  マイノリティ及び社会的弱者  スコープ1 温室効果ガス総排出量 スコープ2 温室効果ガス総排出量 スコープ3 温室効果ガス総排出量 エネルギー 水 廃棄物 生物多様性 製品の利用  持続可能な消費の促進		Д	68	70	72	72	順調	75	77		
多様性、公平性と包括性     女性従業員 技能実習生受入数 マイノリティ及び社会的弱者       スコープ1 温室効果ガス総排出量 スコープ2 温室効果ガス総排出量 スコープ3 温室効果ガス総排出量 エネルギー 水 廃棄物 生物多様性 製品の利用 持続可能な消費の促進	従業員代表によってカバー d 従業員の割合	: れる %	15.1	15.2	15.4	-	-	15.4	-		
多様性、公平性と包括性     女性従業員 技能実習生受入数 マイノリティ及び社会的弱者       スコープ1 温室効果ガス総排出量 スコープ2 温室効果ガス総排出量 スコープ3 温室効果ガス総排出量 エネルギー 水 廃棄物 生物多様性 製品の利用 持続可能な消費の促進	実施回数	6	0	0	0	0		0	2	2030年に2回開催することを目	
接能実習生受入数 マイノリティ及び社会的弱者 スコープ1 温室効果ガス総排出量 スコープ2 温室効果ガス総排出量 スコープ3 温室効果ガス総排出量 エネルギー 水 廃棄物 生物多様性 製品の利用 持続可能な消費の促進	天.尼旦奴	ഥ	U	U	U	U	_	0		指す	
技能実習生受入数 マイノリティ及び社会的弱者 スコープ1 温室効果ガス総排出量 スコープ2 温室効果ガス総排出量 スコープ3 温室効果ガス総排出量 エネルギー 水 廃棄物 生物多様性 製品の利用 持続可能な消費の促進	受講者数	人	0	0	0	470	-	470		2030年に500名の社員に研修を 実施することを目指す	
接能実習生受入数 マイノリティ及び社会的弱者 スコープ1 温室効果ガス総排出量 スコープ2 温室効果ガス総排出量 スコープ3 温室効果ガス総排出量 エネルギー 水 廃棄物 生物多様性 製品の利用 持続可能な消費の促進	全社に占める女性従業員の割		75			75		75	65	2030年までに65%を目指す	
マイノリティ及び社会的弱者  スコープ1 温室効果ガス総排出量 スコープ2 温室効果ガス総排出量 スコープ3 温室効果ガス総排出量 エネルギー 水 廃棄物 生物多様性 製品の利用 持続可能な消費の促進	管理職に占める女性従業員の 役員会に占める女性従業員の		70 50			59 50		60 50		2030年までに60%を目指す 2030年までに50%を目指す	
スコープ1 温室効果ガス総排出量 スコープ2 温室効果ガス総排出量 スコープ3 温室効果ガス総排出量 エネルギー 水 廃棄物 生物多様性 製品の利用 持続可能な消費の促進		Д Д	0		0	-	-	-	-		
スコープ1 温室効果ガス総排出量 スコープ2 温室効果ガス総排出量 スコープ3 温室効果ガス総排出量 エネルギー 水 廃棄物 生物多様性 製品の利用 持続可能な消費の促進	障がい者雇用の割合(法定雇 数)	用人 人	2	2	3	2	進んでいる	3	3	2030年までに1名増やす事を目 指す(2023年 2名)	
スコープ2 温室効果ガス総排出量	管理職に占める障がい者の割	기合 %	0	0	0	0	_	0	0	月9 (2025年 2日)	
温室効果ガス削減  スコープ3 温室効果ガス総排出量  エネルギー  水  廃棄物  生物多様性  製品の利用  持続可能な消費の促進		tCO2eq	0	0	0	0	_	0	0	000000000000000000000000000000000000000	
スコープ3 温室効果ガス総排出量  エネルギー 水  廃棄物  生物多様性  製品の利用  持続可能な消費の促進		tCO2eq	1,500	1,555	1,540	1,545	進んでいる	1,500	1,200	2030年までに1,200tCO2eqを 目指す	
エネルギー 水 廃棄物 生物多様性 製品の利用 持続可能な消費の促進		tCO2eq	-	-	-	-	-	-	-		
水 産棄物 生物多様性 製品の利用 持続可能な消費の促進	下流 上流	tCO2eq tCO2eq	-	-	-	_		-			
水 産棄物 生物多様性 製品の利用 持続可能な消費の促進	エネルギー総消費量	∓kWh	3,450	3,580	3,520	3,500	遅れている	3,500	3 300	2030年までに3,300,kwhを目指	
展棄物 生物多様性 製品の利用 持続可能な消費の促進	-1777	1 8881	0,100	0,000	0,020	0,000	22,1000	0,000		9	
展棄物 生物多様性 製品の利用 持続可能な消費の促進	再生可能エネルギー総消費量	± ∓kWh	0	0	0	0	-	0	350	2030年までに350 千kwhを目 指す	
展棄物 生物多様性 製品の利用 持続可能な消費の促進	水の総消費量	m3	19,500	19,880	19,650	19,680	進んでいる	19,500	19,000	2030年までに19,000㎡を目指	
展棄物 生物多様性 製品の利用 持続可能な消費の促進	有害廃棄物の総消費量	ton	145	135	121	120	遅れている	120	100	す 2030年までに100 t を目指す	
製品の利用製品の利用	非有害廃棄物の総消費量	ton	750	760	760	760	順調	760	800	2030年までに800 t を目指す	
製品の利用製品の利用	回収再生廃棄物 総消費量 工場における騒音値	ton dB	650 65		660 65	660 65	順調	670 65		2030年までに700 t を目指す 2030年まで65dBを維持する	
持続可能な消費の促進	ロス率	%	3	3	3	3	順調	2		2025年までに2%を目指す	
	製品回収率 顧客の健康・安全上の問題の	件	0	0	0	0	順調	0	0	毎年0%を目指す	
	概备の触線・女主工の问题の 件数	件	2	1	1	1	順調	0	0	毎年0%を目指す	
	環境配慮商品 提案件数	件	60	65	68	70	遅れている	70	100	2030年までに100件/年の提案	
										を目指す 2030年までに50件/年の提案	
倫理に関する研修を受けた従業員数	環境配慮商品 受注件数	件	30	30	32	32	順調	35	50	を目指す	
倫理に関する研修を受けた従業員数	カーボンオフセット植林活動 用取引先数	力 採	-	-		-	-	-	-		※「-」該当者なし
		Д	0		0	0		0	0		
	A: 法令違反	件	3		2	2	遅れている	0		0%を維持する	
	B:ハラスメント相談 C:その他	件件	0		0	0	順調	0		0%を維持する 0%を維持する	
内部通報 報告件数	A   D   C   A=1	件	3	2	2	2	順調	0		0%を維持する	
	A + B + C: 合計	対応対件	15	12	11	10	遅れている	8	8	0%を維持する	
	D: 意見・要望(内部通報	計件	18	14	13	12	遅れている	8	8	0%を維持する	
		件件	1 0		0	0	順調順調	0		0%を維持する 0%を維持する	
腐敗行為件数	D:意見・要望(内部通報 象外) A+B+C+D:通報件数 合 汚職または贈収賄		0		0	0	順調	0		0%を維持する	
コンプライアンス 倫理	D: 意見・要望(内部通報 象外) A+B+C+D: 通報件数 合 汚職または贈収所 情報漏洩 ※1	件	0	Ů	0	0	順調	0	0	0%を維持する	
	D: 意見・要望(内部通報 象外) A+B+C+D: 通報件数 合 汚職または贈収賄 情報漏洩 ※1 利益相反 インサイダー取引	件	0		0	0	順調	0		0%を維持する 0%を維持する	
緊急事態発生件数	D: 意見・要望(内部通報 象外) A+B+C+D: 通報件数 合 汚職または贈収防 情報漏洩 ※1 利益相反 インサイダー取引 火災	件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件件	3	3	0	1	進んでいる	0	0	0%を維持する	
	D: 意見・要望(内部通報 象外) A+B+C+D: 通報件数 合 汚職または贈収所 情報漏洩 ※ 1 利益相反 インサイダー取引 火災 自然災害 システム障害	件 件 件 件		0	0	0	順調	0		0%を維持する 0%を維持する	
製品回収	D: 意見・要望(内部通報 象外) A+B+C+D: 通報件数 合 汚職または贈収賄 情報漏洩 ※1 利益相反 インサイダー取引 火災 自然災害 システム障害 上記以外の事件・事故	件 件 件 件	1		U	0		0	- 0	U%を維持する O%を維持する	
歌帝四次	D: 意見・要望(内部通報 象外) A+B+C+D: 通報件数 合 汚職または贈収所 情報漏洩 ※ 1 利益相反 インサイダー取引 火災 自然災害 システム障害	件 件 件 件	1 0 0		0	0	順調順調	0	0		. —
情報セキュリティインシデント 件数 (※1に該当し	D: 意見・要望(内部通報 象外) A+B+C+D: 通報件数 合 汚職または触収所 情報漏洩 ※1 利益相反 インサイダー取引 火災 自然災害 システム障害 上記以外の事件・事故 製品回収件数 回収商品数 健康被害報告件数	件 件 件 件 件 件 件	1 0 0	0	0	0	順調	0	0	0%を維持する	
強制労働報告	D: 意見・要望(内部通報 象外) A+B+C+D: 通報件数 合 汚職または贈収附 情報漏洩 ※1 利益相反 インサイダー取引 火災 自然災害 システム障害 上記以外の事件・事故 製品回収件数 回収件数 回収所品数 健康被害数告件数 怪我等 報告件数	件 件 件 件 件 件 件	1 0 0	0 0 2	0 0 3	0 0 0 2	順調 順調 遅れている	0 0 2	0 0 1	0%を維持する 0%を維持する	
資材 リサイクルされた木材・木材を使用した製品の割合 ESC製缸を添けたませ、木材を使用した製品の割合	D: 意見・要望(内部通報 象外) A+B+C+D: 通報件数 合 汚職または贈収附 情報漏洩 ※1 利益相反 インサイダー取引 火災 自然災害 システム障害 上記以外の事件・事故 製品回収件数 回収件数 回収所品数 健康被害数告件数 怪我等 報告件数	件 件 件 件 件 件 件	1 0 0 0 4 0	0 0 2 0 0	0 0 3 0 0	0 0 2 0 0	順調 順調 遅れている 順調 順調	0 0 2 0	0 0 1 0	0%を維持する       0%を維持する       0%を維持する       0%を維持する	
CSR調達 FSC認証を受けた木材・木材を使用した製品の割合 行動規範に署名したサプライヤーの割合	D: 意見・要望(内部通報 象外) A+B+C+D: 通報件数 合 汚職または贈収附 情報漏洩 ※1 利益相反 インサイダー取引 火災 自然災害 システム障害 上記以外の事件・事故 製品回収件数 回収件数 回収所品数 健康被害数告件数 怪我等 報告件数	件 件 件 件 件 件 件 件 件 件 件	1 0 0 0 4 4 0 0	0 0 2 0 0 0		0 0 2 0 0	順調 順調 遅れている 順調 順調 順調	0 0 2 0 0 0	0 0 1 0 0 0	0%を維持する       0%を維持する       0%を維持する       0%を維持する	
サプライヤー	D: 意見・要望(内部通報 象外) A+B+C+D: 通報件数 合 汚職または贈収附 情報漏洩 ※1 利益相反 インサイダー取引 火災 自然災害 システム障害 上記以外の事件・事故 製品回収件数 回収件数 回収所品数 健康被害数告件数 怪我等 報告件数	件 件 件 件 件 件 件 件 件	1 0 0 0 4 0	0 0 2 0 0 0 60	60	0 0 2 0 0	順調 順調 遅れている 順調 順調 順調 順調	0 0 2 0	0 0 1 0 0 80	0%を維持する       0%を維持する       0%を維持する       0%を維持する	